

ごみ組成分析調査報告書 概要版

令和5年8月

茅ヶ崎市

第1章 調査概要

○調査目的

本調査は、ごみの中に含まれる資源物の混入率の確認、ごみの中に混入している容器包装廃棄物、食品ロス、プラスチック類等の詳細割合を明らかにし、一般廃棄物処理基本計画の改定などに際し、ごみからの資源化の総量及び資源化施策の参考資料を得るために実施致しました。

○調査対象ごみ

| 対象ごみ | 区 分 | 採取場所 |
|-------|-------------------|--------------------------|
| 家庭系ごみ | 燃やせるごみ 燃やせないごみ | 収集区域ごとに任意の集積場所から採取 |
| 事業系ごみ | 燃やせるごみ | 環境事業センターへ持ち込まれる許可収集車から採取 |

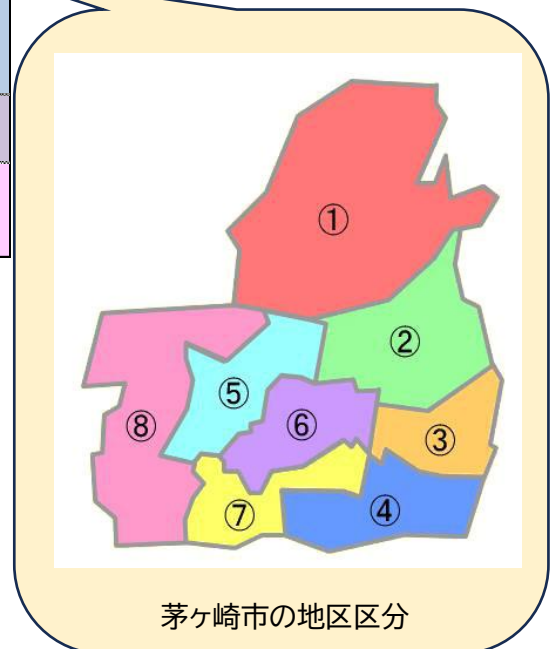
○調査対象地区(家庭系ごみ)および調査期間

家庭系

| 分析対象 | 収集地点 | 調査期日 | |
|------|--|--------|---------|
| | | 燃やせるごみ | 燃やせないごみ |
| 1番地区 | 香川・松風台・甘沼・行谷・芹沢・堤・下寺尾・みずき | 7月17日 | 7月19日 |
| 4番地区 | 東海岸南・常盤町・富士見町・平和町・松が丘・菱沼海岸・白浜町・浜須賀・緑が浜・汐見台 | 7月18日 | 7月26日 |
| 6番地区 | 茅ヶ崎・本村・元町・幸町・新栄町・十間坂・共恵 | 7月17日 | 7月19日 |
| 8番地区 | 萩園・平太夫新田・今宿・中島・松尾・柳島・柳島海岸・浜見平 | 7月18日 | 7月26日 |

事業系

| 分析対象 | 調査期日 |
|------|--------|
| | 燃やせるごみ |
| No.1 | 7月25日 |
| No.2 | 7月28日 |



○調査方法

「家庭から排出される食品廃棄物に占める食品ロスの調査マニュアル（平成 30 年 3 月 神奈川県ごみ処理広域化推進会議）」の調査方法に準拠し調査を行いました。

第2章 ごみ質組成分析調査結果

○家庭系ごみ

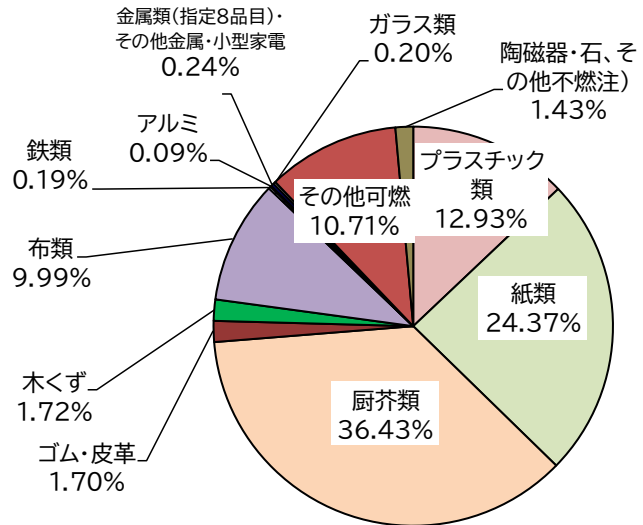
1)燃やせるごみ

大項目でみた家庭系燃やせるごみの組成分析概要は以下のとおりです。

厨芥類及び紙類が全体の 60.80%を占めており、次いでプラスチック類、その他可燃が多く含まれていました。

| 項目 | 割合(%) |
|---------------------------|--------|
| プラスチック類 | 12.93 |
| 紙類 | 24.37 |
| 厨芥類 | 36.43 |
| ゴム・皮革 | 1.70 |
| 木くず | 1.72 |
| 布類 | 9.99 |
| 鉄類 | 0.19 |
| アルミ | 0.09 |
| 金属類(指定8品目)・ その他金属・小型家電 | 0.24 |
| ガラス類 | 0.20 |
| その他可燃 | 10.71 |
| 陶磁器・石、その他不燃 ^{注)} | 1.43 |
| 合計 | 100.00 |

注)危険ごみ、医療ごみ含む
※湿ベース重量(%)

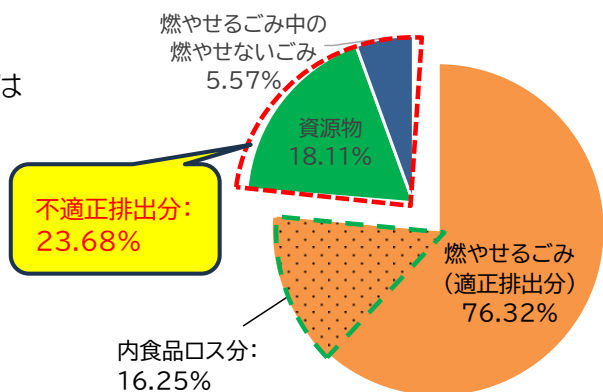


① 不適正排出

燃やせるごみの中にも含まれる不適正排出分
(資源物：18.11%、燃やせないごみ：5.57%)は
23.68%でした。

全体の約 2 割が正しい排出がなされて
ていませんでした。

また、燃やせるごみの中にも含まれる食品ロス
(本来食べられるにも拘わらず捨てられて
しまう食べ物)分は 16.25%でした。

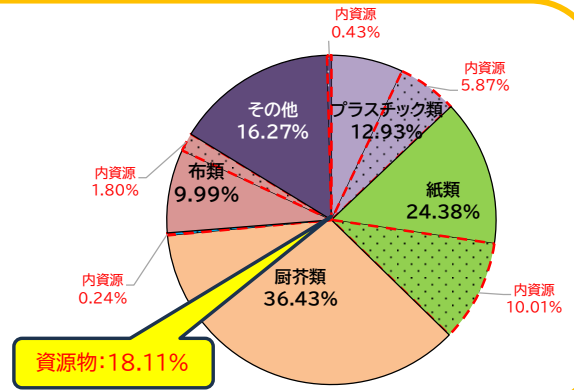


①-1 資源物

資源として排出可能なプラスチック類、紙類、布類の混入が見られました。

プラスチック類では、レジ袋やレジ袋以外の袋、容器包装（その他）が多く含まれていました。

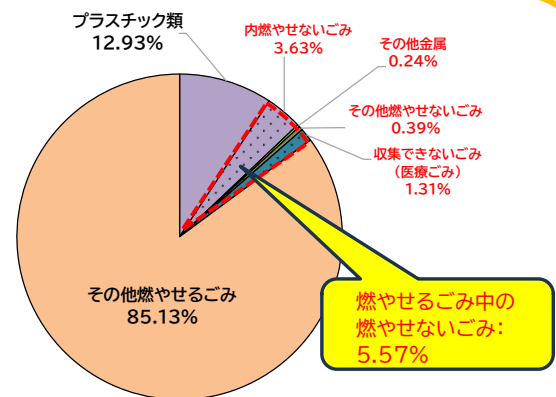
紙類ではざつ紙、紙容器、雑誌・その他などが多く含まれていました。



①-2 燃やせるごみの中の燃やせないごみ

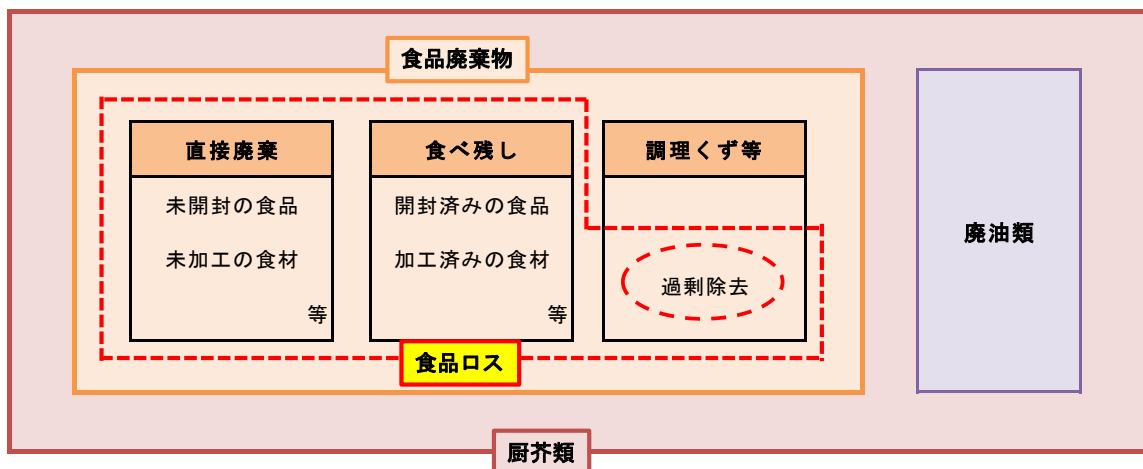
燃やせるごみの中の燃やせないごみとして、プラスチック類、その他金属収集できないごみ（医療ごみ）等の混入が見られました。

プラスチック類では、容器包装以外の硬質プラスチック、容器包装以外のその他、などが含まれていました。



② 食品廃棄物(食品ロス)

食品廃棄物は、直接廃棄、食べ残し、調理くず等（過剰除去含む）に大別され、直接廃棄、食べ残し、調理くず等の過剰除去が食品ロス（本来食べられるにも拘わらず捨てられてしまう食べ物）に含まれます。



食品廃棄物の分類



直接廃棄



食べ残し

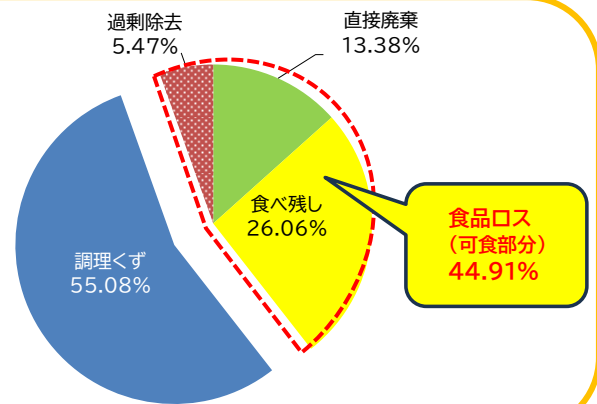


調理くず

※写真は調査時のものです。

食品廃棄物全体に占める排出割合は、調理くず等が
(内過剰除去5.47%) 60.56%、食べ残しが26.06%、
直接廃棄が13.38%でした。

以上のことから、食品廃棄物中の可食部分は44.91%
を占めており、食品廃棄物の半数近くが食品ロス
(本来食べられるにも拘わらず捨てられてしまう食べ物)
でした。



家庭系燃やせるごみ調査時の状況(1番地区)



収集状況



分類状況



計量状況

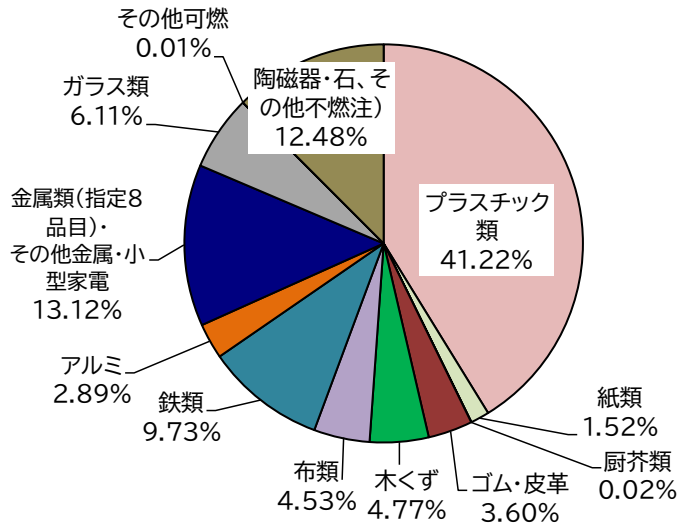
2) 燃やせないごみ

大項目でみた家庭系燃やせないごみ組成分析概要は以下のとおりです。

プラスチック類が全体の40%を占めており、次いで金属類（指定8品目・その他金属、小型家電、陶磁器・石、その他不燃が多く含まれていました。

| 項目 | 割合(%) |
|---------------------------|--------|
| プラスチック類 | 41.22 |
| 紙類 | 1.52 |
| 厨芥類 | 0.02 |
| ゴム・皮革 | 3.60 |
| 木くず | 4.77 |
| 布類 | 4.53 |
| 鉄類 | 9.73 |
| アルミ | 2.89 |
| 金属類（指定8品目）・ その他金属・小型家電 | 13.12 |
| ガラス類 | 6.11 |
| その他可燃 | 0.01 |
| 陶磁器・石、その他不燃 ^{注)} | 12.48 |
| 合計 | 100.00 |

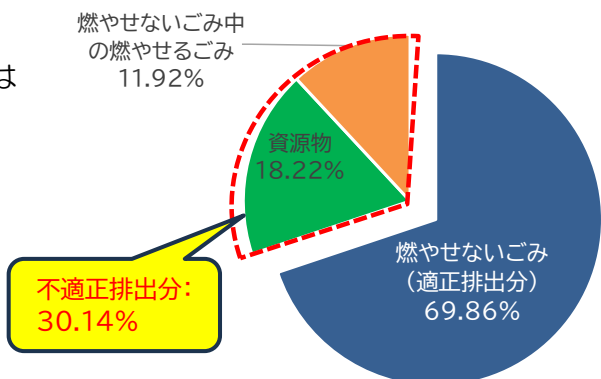
注)危険ごみ、医療ごみ含む
※湿ベース重量(%)



① 不適正排出

燃やせないごみの中に含まれる不適正排出分
(資源物:18.22%、燃やせるごみ:11.92%)は
30.14%でした。

全体の約3割が正しい排出がなされていません
でした。

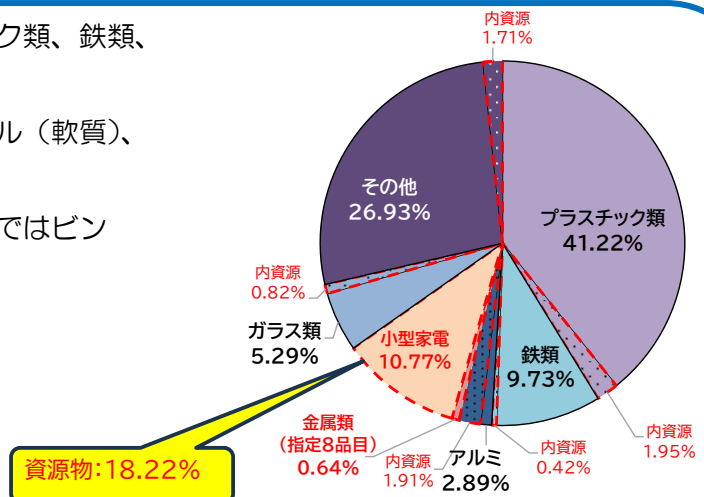


①-1 資源物

資源として排出可能な小型家電、プラスチック類、鉄類、
アルミ類の混入が見られました。

プラスチック類では、容器包装その他ボトル(軟質)、
レジ袋が多く含まれていました。

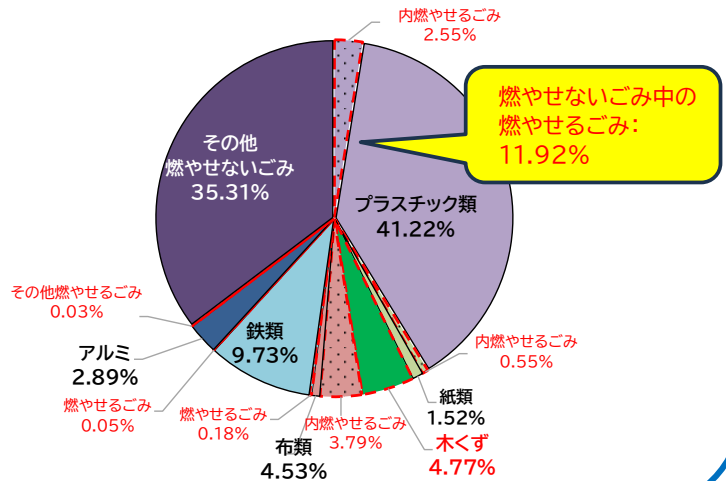
鉄類、アルミでは、飲料缶など、ガラス類ではピン
が含まれていました。



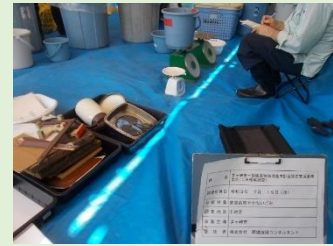
①-2 燃やせないごみの中の燃やせるごみ

燃やせないごみの中の燃やせるごみとして、プラスチック類、木くず、布類等の混入が見られました。

プラスチック類では、容器包装以外の軟質プラスチックが含まれていました。



家庭系燃やせないごみ調査時の状況(1番地区)



○事業系ごみ

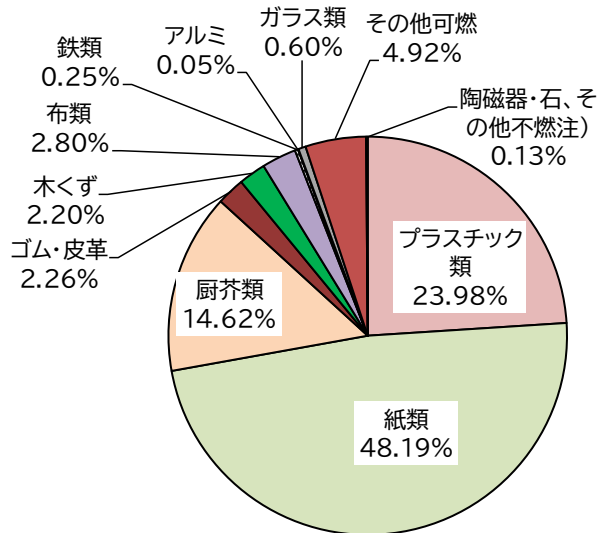
1) 燃やせるごみ

大項目でみた事業系燃やせるごみの組成分析概要は以下のとおりです。

紙類が全体の約半数を占めており、次いでプラスチック類、厨芥類が多く含まれていました。

| 項目 | 割合(%) |
|---------------------------|--------|
| プラスチック類 | 23.98 |
| 紙類 | 48.19 |
| 厨芥類 | 14.62 |
| ゴム・皮革 | 2.26 |
| 木くず | 2.20 |
| 布類 | 2.80 |
| 鉄類 | 0.25 |
| アルミ | 0.05 |
| 金属類(指定8品目)・ その他金属・小型家電 | 0.00 |
| ガラス類 | 0.60 |
| その他可燃 | 4.92 |
| 陶磁器・石、その他不燃 ^{注)} | 0.13 |
| 合計 | 100.00 |

注)危険ごみ、医療ごみ含む
※湿ベース重量(%)



① 不適正排出

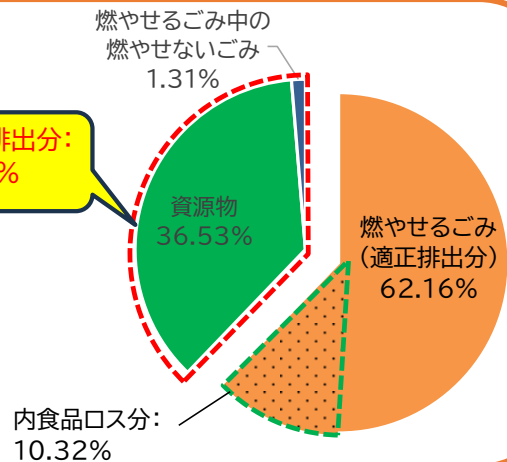
燃やせるごみの中にも含まれる不適正排出分

(資源物：36.53%、燃やせないごみ：1.31%)は
37.84%でした。

全体の約4割が正しい排出がなされて
ていませんでした。

また、燃やせるごみの中にも含まれる食品ロス

(本来食べられるにも拘わらず捨てられてしまう
食べ物)分は10.32%でした。

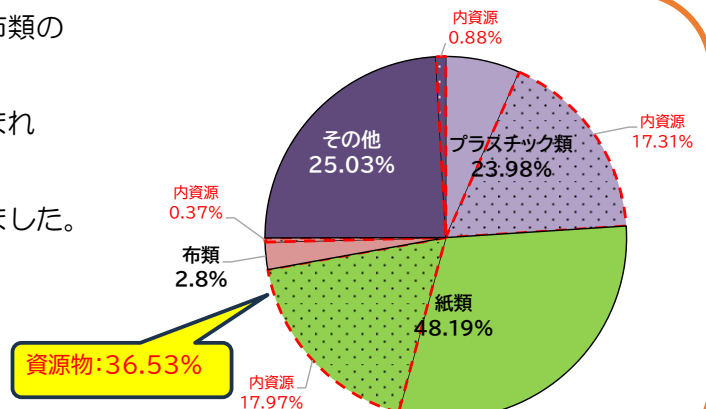


①-1 資源物

資源として排出可能なプラスチック類、紙類、布類の
混入が見られました。

プラスチック類では、レジ袋以外の袋が多く含まれ
ていました。

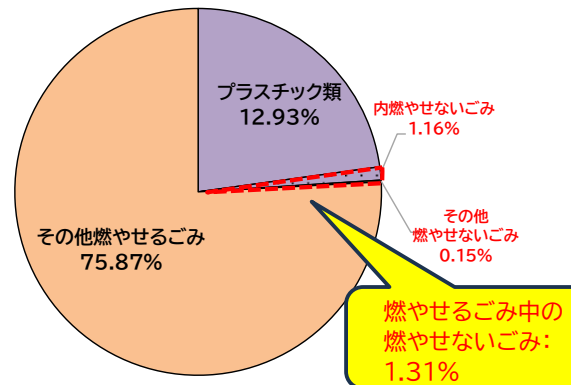
紙類ではざつ紙、紙容器などが多く含まれていました。



①-2 燃やせるごみの中の燃やせないごみ

燃やせるごみの中の燃やせないごみとしてプラスチック類、その他金属収集できないごみ（医療ごみ）等の混入が見られました。

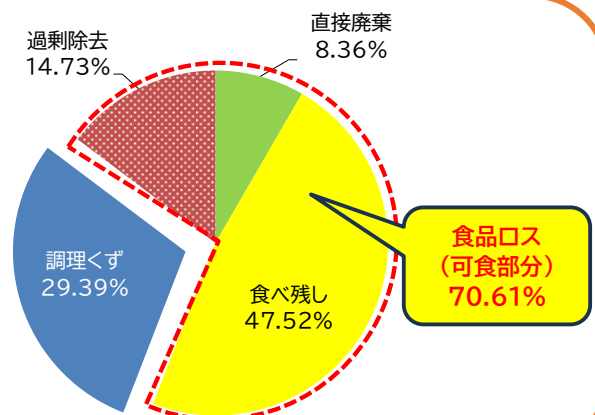
プラスチック類では、容器包装以外の硬質プラスチック、容器包装以外のその他、などが含まれていました。



②食品廃棄物(食品ロス)

食品廃棄物全体に占める排出割合は、食べ残しが47.52%、調理くず等（内過剰除去）が14.73%、直接廃棄が1.22%でした。

以上のことから、食品廃棄物中の可食部分は70.61%を占めており、食品廃棄物の約7割が食品ロス（本来食べられるにも拘わらず捨てられてしまう食べ物）でした。



直接廃棄



食べ残し



調理くず

※写真は調査時のものです。

事業系燃やせるごみ調査時の状況(No.1)



収集状況



分類状況



計量状況

第3章 ごみ組成の変化状況

大項目における経年的な変化は、今年度と過去3回の調査結果（平成21年度、平成23年度、平成28年度）で確認しました。

○家庭系燃やせるごみ

令和5年度調査では、平成28年度調査で全体の半数を占めていた厨芥類や紙類の量が減量しており、プラスチック類、ゴム・皮革、木くず、布類が増加しました。

排出不適物である医療ごみの排出が見られたが、ガラス類、危険ごみ、その他不燃の混入率は1%以下であり、危険ごみや陶器類の混入は見られませんでした。

○家庭系燃やせないごみ

平成28年度調査と比較するとプラスチック類や燃やせるごみである紙類、木くず、布類が増加した。危険ごみは1%以下、医療ごみの混入も見られませんでした。

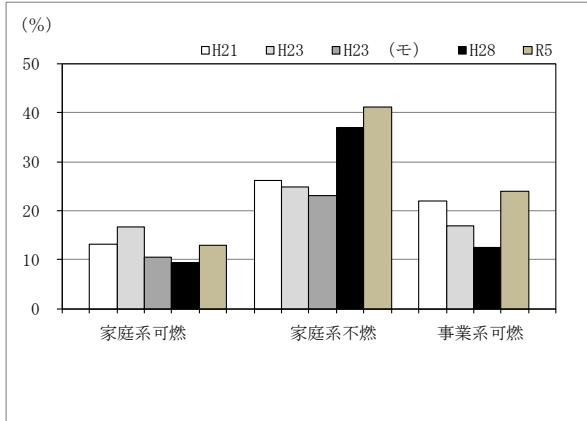
○事業系燃やせるごみ

調査対象の許可業者の収集運搬車により、調査の都度変動があると考えられます。令和5年度調査では、紙類が全体の半数を占めており、次いでプラスチック類、厨芥類が多かったです。

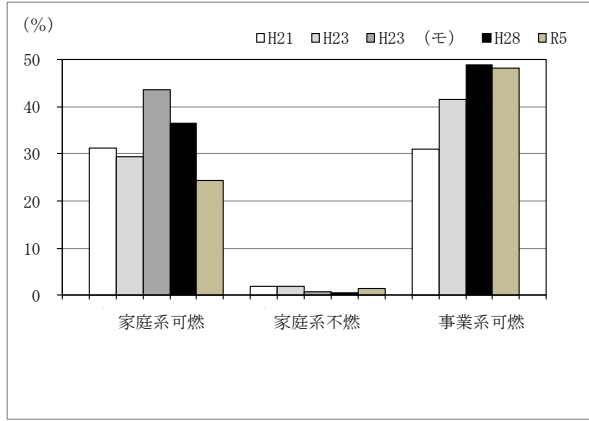
事業系の燃やせるごみ中において、全体で1.74kg（1.33%）の燃やせないごみが確認されました。

各大項目の経年変化を次ページに示します。

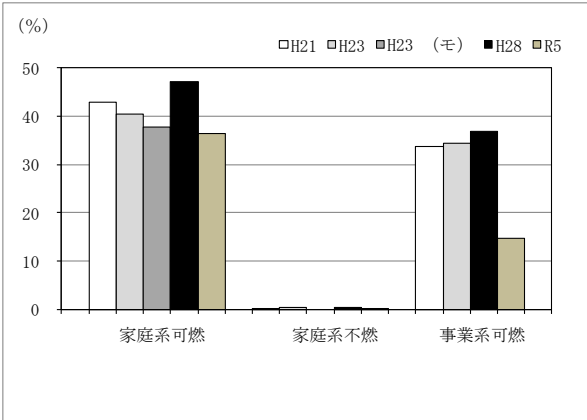
①プラスチック



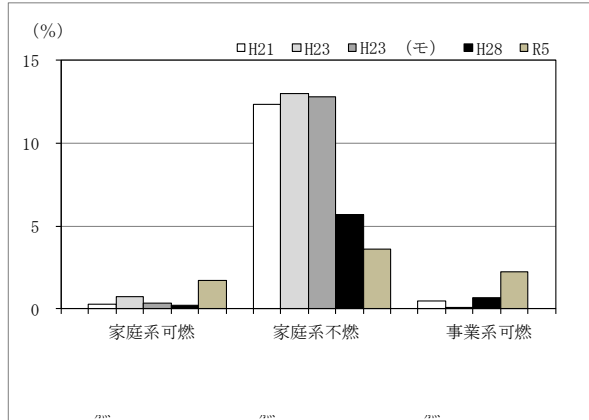
②紙類



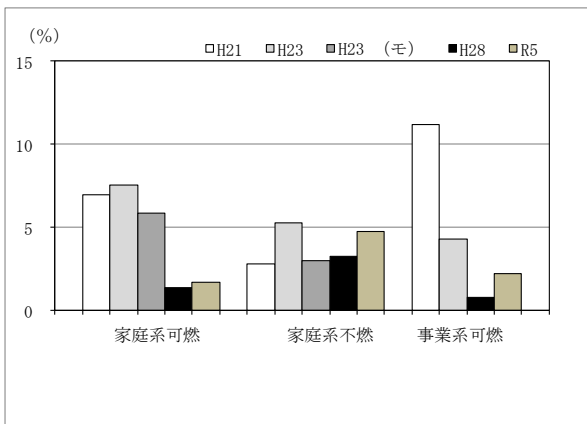
③厨芥類



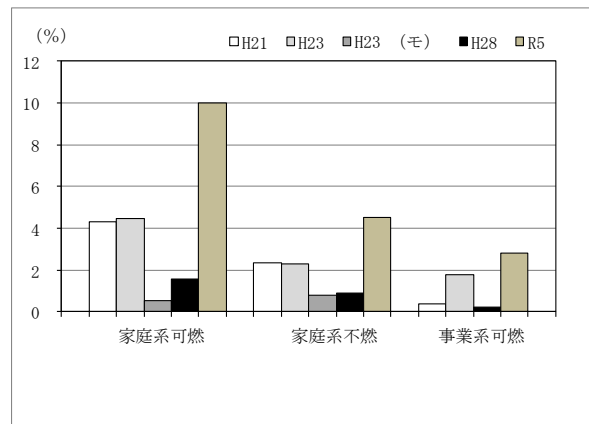
④ゴム・皮革



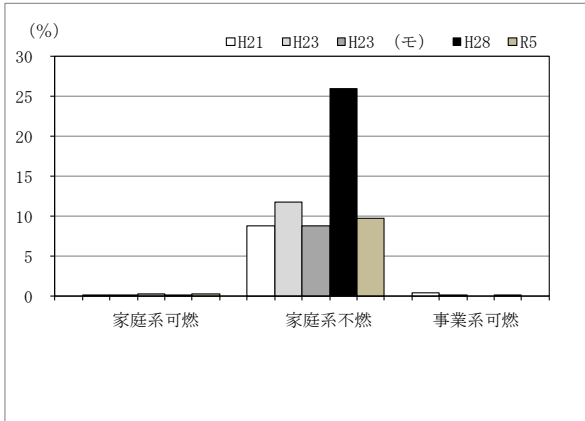
⑤木くず



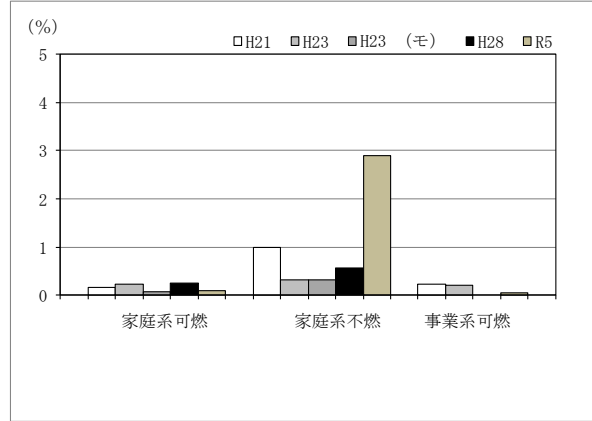
⑥布類



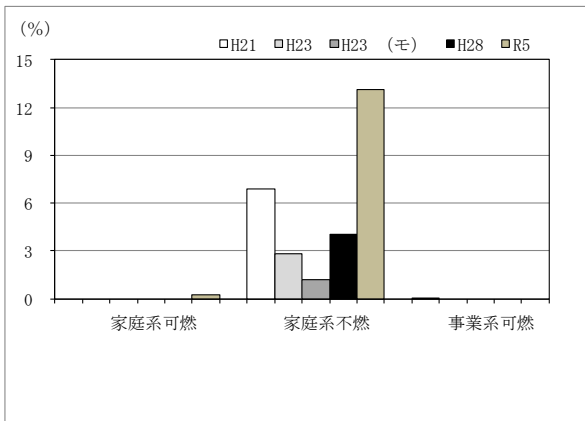
⑦鉄類



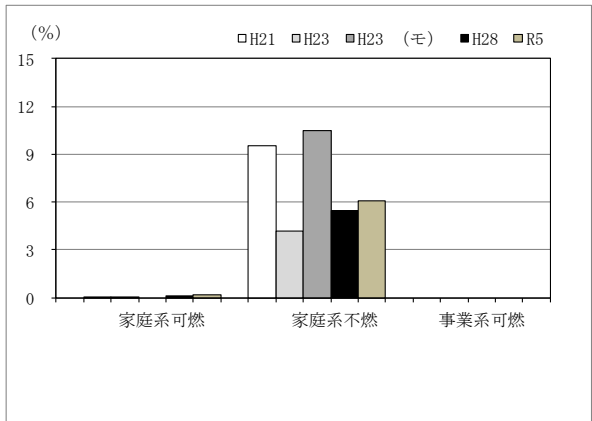
⑧アルミ



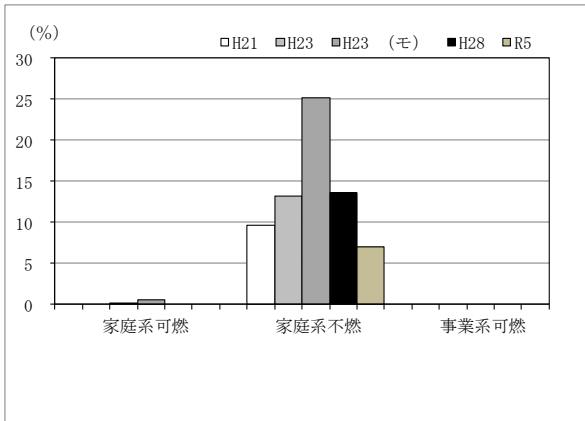
⑨～⑪金属類（指定8品目）、その他金属、小型家電



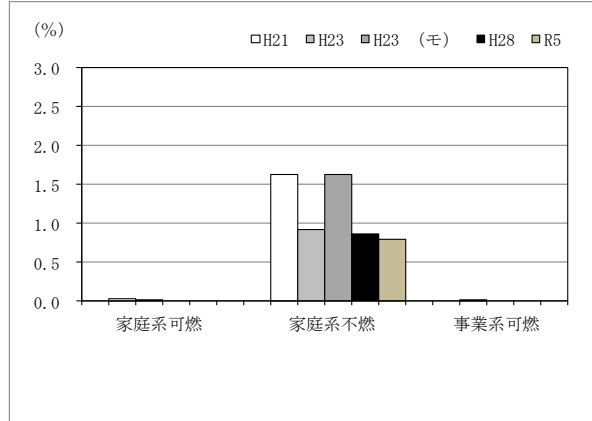
⑫ガラス類



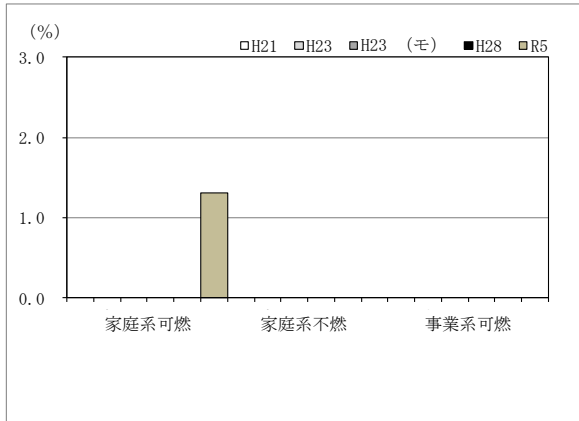
⑬陶磁器・石



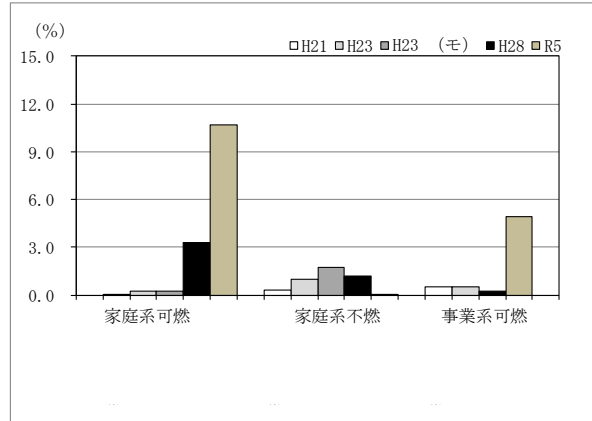
⑭危険ごみ



⑮医療ごみ



⑯その他可燃



⑰その他不燃

